

## Puls.の古典ケース「逆子の女性」

私は、International Hahnemanian Associationの会合でのF.E,Gladwin 博士の報告からひとつのケースをここで引用する。

.....

患者は 34 才で、初めての分娩だった。

陣痛は 15 時間に及んだが、子宮口が広がる以上のことには進展せず、逆子のようにだった。彼女は泣きさけび、完全に落胆して、器具を使うよう求めた。

私は Pulsatilla を与え、30 分待ったが、何の進展もなく、彼女は再び器具を使って欲しいと乞いた。そこで、器具をとりに家に帰った。

1 時間ほどで戻ったとき、私は、患者と看護婦と義母がみんな微笑んでいるのを見た。

私は、『どうしましたか。赤ちゃんが生まれたのですか？』と聞いた。彼らは答えた。

『いいえまだです。でも赤ちゃんは正常位に戻りました。』

私はどうして彼女がそう思うのかを尋ねたところ、彼女は、私が家に帰った後、2 度のひどい痛みを感じたがそれがまるで赤ちゃんが宙返りをしたように感じたのだと話した。

彼女は付け加えた — 『赤ちゃんが、今までずっと一方に位置していたのが今反対側にいることがあなたもわかるでしょう。』

.....